

## 平成 27 年度 第 1 回 原子力土木委員会 議事録

1. 日時： 2015 年 5 月 19 日（火）14:00～17:30
2. 場所： 土木学会 講堂
3. 出席者（第 2 部の委員会のみ，敬称略）：

委員長 丸山久一（長岡技術科学大）

副委員長 小長井一男（横浜国大）

委員 浅野彰洋（四国電力），内海博（日本原燃），大坪武弘（九州電力），小池章久（日本原電，北川委員代理），佐藤慎司（東京大学），庄司学（筑波大学），副島紀代（大林組），高橋智幸（関西大学），高原秀夫（鹿島建設），武田泰平（北陸電力，前川功委員代理），武村雅之（名古屋大学），千釜章（東北電力），谷和夫（防災科研），佃榮吉（産総研），仲村治朗（中部電力），中村晋（日本大学），奈良由美子（放送大），平松晋一（応用地質），藤本滋（東京都市大学），古谷恵一（北海道電力），松浦一樹（ダイヤコンサルタント），松蔭茂男（中国電力），松本悟（東京電力），村山正純（五洋建設），米山望（京都大学），渡辺和明（大成建設）

幹事長 大鳥靖樹（電中研）

幹事 東川直樹（中部電力），堀江正人（関西電力），青柳恭平（電中研）

オブザーバー 土宏之（清水建設），松村卓郎，松山昌史，岡田哲実，小早川博亮，中島正人，松尾豊史（以上，電中研）

### 4. 議題：

#### 第 1 部 14:00-15:30 公開講演会

「歴史に学ぶ防災論 関東大震災は語る」

武村雅之 委員（名古屋大学減災連携研究センター教授）

#### 第 2 部 15:45-17:30 委員会（委員のみ）

(1) 委員長挨拶

(2) 委員会報告

- ・昨年度の委員会活動
- ・汚染水タスクフォースほか関連委員会

(3) 小委員会報告

- ・活断層評価小委員会
- ・地盤安定性評価小委員会
- ・断層変位評価小委員会
- ・津波評価小委員会

(4) 【審議事項】委員長の改選

(5) 今後の予定ほか

- ・新たな小委員会設立の動き（国際規格，構造物健全性，地盤安定解析の高度化）
- ・その他

5. 配布資料

資料 No.1 委員名簿

資料 No.2 前回議事録

資料 No.3 委員会規則と運営上の申合せ事項（2013/9/9 制定）

資料 No.4 原子力土木委員会の活動報告資料

（4-1:活動度調査書，4-2:研究討論会，4-3:汚染水 TF，4-4:土木学会からの依頼による委員の派遣）

資料 No.5 各小委員会活動報告資料

（5-1:活断層，5-2:地盤安定性，5-3:断層変位，5-4:津波）

資料 No.6 原子力土木委員会 次期委員長候補選出について

資料 No.7 新たな小委員会の設立趣意書

（7-1:国際規格，7-2:構造物健全性，7-3:地盤安定解析の高度化）

6. 議事

(1) 委員長挨拶と議事録の確認

丸山委員長から開会の挨拶があった。

続いて，資料 No.2 に基づいて，青柳幹事から議事録の要点が確認された（前回の会議後にメール承認しているため，詳細の確認は割愛）。

(2) 委員会報告

- ・大鳥幹事長より昨年度は，8つの公開行事に述べ540人の参加者数があり，学会による委員会の評価ランクはBに上昇したことが報告された（資料 No.4-1）。
- ・青柳幹事より土木学会全国大会での研究討論会「原子力安全と原子力土木委員会の果たす役割」（2014年9月12日@大阪大学）の開催報告がなされた（資料 No.4-2）。
- ・大鳥幹事長と丸山委員長より，汚染水タスクフォースの活動概要と成果（資料 No.4-3），および土木学会からの依頼にもとづく委員の派遣実績が報告された（資料 No.4-4）。

(3) 小委員会報告

- ・活断層評価小委員会（資料 No.5-1），地盤安定性評価小委員会（資料 No.5-2），断層変位評価小委員会（資料 No.5-3），津波評価小委員会（資料 No.5-4）について，各小委員会の幹事長・幹事から報告がなされた。
- ・断層変位評価小委員会については報告書ドラフト版が回覧され，小委員会のwebサイトに掲載された同報告書を6/5までに承認することになった。修正意見がある場合には，期日までに小委員会幹事（同webサイトに送付先が記載される）まで提出。

<全体>

C: どのようなメンバーで検討しているのか分かるように、必ず委員構成を掲載してほしい。

C: 広く成果を使って頂けるように、学会として成果をとりまとめて発信して欲しい。

<地盤安定性>

Q: 確率論的リスク評価 WG について、危機耐性を原子力に本当に適用していいのか。

A: 想定を超えるようなイベントに対しても、そのようなことにならないようなという観点での枠組み。機器耐性を考える上での考え方が提案された。多重性だけでなく多様性も。地盤だけを議論しているのではなく、施設として議論した。

<断層変位>

Q: IAEA の Technical Report にも反映できるのではないかな。

A: この報告書はあくまで現状の解析技術、評価技術をまとめたものであり、設計まで適用できるものでないことに留意頂きたい。どちらかというデータ集というスタンスである。

C: 土木学会で出版して、それを引用して頂くのがベスト。冊子体でなく web 掲載でも良い。

A: 報告書はシンポジウム論文集とともに合本して出版物とする。報告書部分のみ、web からダウンロード可とする。

Q: 変位の影響評価までやっていることは意義深い。今後、土木だけでなく、建築や機器側も含めて検討を進めたら良いのではないかな。クロスオーバーの部分は原子力学会でカバーされるのか。

A: 小委員会としての活動は終了するが、一部のメンバーは原子力学会の専門委員会にも参画し、本小委員会との情報共有を図る。また、地盤安定解析の高度化小委員会の中に断層変位評価 WG を立ち上げて、土木側の検討も継続する。

C: 土木学会だけでなく、新たなジョイントコミュニティを立ち上げて良い。

#### (4) 【審議事項】 委員長の改選

資料 No.6 (原子力土木委員会 p.43) に基づき、承認の採決がなされた。投票状況は以下の通り。委員総数 40 人のうち承認に必要な 2/3 以上の賛同 (権限委譲を含め 38 票) が得られたため、次期の委員長候補として丸山教授を選出した。なお、理事会の承認をもって正式に委員長に就任される。

##### 【投票状況】

事前の電子メールによる賛成: 10

事前の電子メールによる権限移譲: 1

当日の挙手による賛成: 27

棄権・欠席: 2

<丸山新委員長のご挨拶>

この2年間は、原子力土木委員会のあり方を意識して取り組んできたが、汚染水 TF などもあるが、本委員会に十分に注力できなかったことが反省点である。今後の2年間は、最後の任期ともなるため、委員会活動の活発化、社会にどう発信していくか、という2点で尽力したい。幹事長は松村氏に交代となるが、委員の皆様には継続して務めて頂きたい。皆様のご協力をお願い致します。

#### (5) 今後の予定ほか

平成27年度以降に設立が計画されている下記の小委員会について、概要（目的・期間・活動内容・委員構成・活動期間）が、それぞれの委員長または幹事長（候補）から紹介された。これら小委員会の設立については、6月から開始される新年度の原子力土木委員会において承認されることとなった。

- ・国際（規格）小委員会（平成27年6月～平成31年5月、中村晋委員長（候補））
- ・構造健全性評価小委員会（平成27年7月～平成30年3月、前川宏一委員長（候補））
- ・地盤安定解析の高度化小委員会（平成27～29年度、京谷孝史委員長（候補））

#### (6) その他

<小委員会の委員比率について>

C: 「運営上の申合せ事項」には、「小委員会の委員構成は、電力比率を1/3以下を目安とする」と記載されているが、小委員会は研究の最前線なのでこだわらなくても良いのではないかと。小委員会によって異なる、オブザーバー、常時参加者などの名称は、整理・統一するべきである。

A: 常時参加者に議決権はない。3.11後の委員会改革の際に、当時の幹事団で相談したものである。その比率は努力目標であるが、あらぬ誤解を受けないように配慮したもの。ただし、本質的な議論は、電力サイトの具体的なデータに基づくことが不可欠であり、常時参加者も議論には参加できる。今後、運営上の申合せ事項の文言も工夫する。

<原子力安全・地域防災に関する小委員会について>

Q: 前回議事録で、この小委員会の設立が議論されているが、その後はどうなっているか。

A: その小委員会で想定していた内容については、地盤安定性評価小委員会のWG5で一部取り組み、一定の成果は出ている。今回は、それより急がれる国際規格小委員会の設立を優先した。

以上